

合同学校運営協議会② 令和7年7月17日（木） 13：30～ 国分寺中学校 図書室

【出席者】

〔国分寺中〕 菊地高夫・上野健治・小林 勉・永井有紀子・北原由香恵・西東陽子・山中庄一
下山千恵子

〔国分寺小〕 石島 直・白石孝子・

〔国分寺東小〕 坂本順子・軸丸尚子・小林雅宜・

〔地域学校協働活動推進員〕 海老原 忠・坪山 仁・

〔事務局〕 稲葉亜希恵・矢島 司

1. 開 会

○国分寺中校長あいさつ（菊地校長）

国分寺中学区の合同学校運営協議会は初めての取組である。他の中学校区でもこのような合同の運営協議会を実施している。令和7年度は、試行的に実施してみようと3校の校長で話し合っ、実施することに至った。小中一貫教育を進めているが、地域の方々のこういった情報交換の場やお互いの小中学校の現状などを確認する場になればと思っている。最後に地域学校協働本部についても議題があるので、よろしくお願いしたい。

2. 自己紹介

3. 協 議（司会：稲葉教頭）

（1）令和7年度 小中一貫グランドデザインについての説明（国分寺東小・坂本校長）

今年度、国分寺東小が事務局になっている。児童・生徒の様子は、全体的に礼儀正しく落ち着いた態度で学校生活を送っている。学習面では、課題について協力して考えたり、学びを深めたりといった授業の受け方を小学校から指導している。中学校に入っても協力しながら学び合う姿勢が身に付いている。地域の様子については、小金井駅を中心に、自然豊かな地域である。地域の方や保護者の皆さまが教育活動に理解があり、いろいろな場面で協力いただいている。

目指す子ども像については、小学校1年生から中学校3年生までの9年間を通して、こんな子どもたちになってほしいという同じ目標に向かって授業や児童生徒指導を行っている。目指す子ども像として、「お互いに学び合う子ども・主体的に人や社会に関わる子ども・心身ともに健康で自分を大切にする子ども」としている。この目指す子ども像に向かって、「聞く」「伝える」「関わる」という3つの柱に、それぞれ子どもたちのできる姿が書いてある（グランドデザイン参照）。1年生から4年生までは、学びの基礎をつくる。5年生から中学校1年生までは、1年生から4年生までに培った基礎を広げていく。中学校2年生から3年生は、より学びを深めるということから、目指す子ども像に近づいていくという形になっている。この中で、先生方はいくつかの部会に分かれて、どんな取組ができるかを考えている。今年は特に「伝える」の部分で、タブレット端末に打ちながら物事を考えていくというタイピング力の育成に力を入れ小中で協力して行っている。今年度は、年間4回小中の先生方が部会ごとに集まって、具体策の実践に向けた話し合いをしていく（共有しながらすすめている）。各学校のHPなどに、このグランドデザインは載せてあるので、確認してもらいたい。

(2) 各校の地域連携の取組についての説明

(国分寺中・稲葉教頭 国分寺小・白石教頭 国分寺東小・小林教務)

(国中) *別紙参照 職業人講話・職場体験学習・読み聞かせ(絵本)・AED講習・幼稚園実習
地域のお祭りへの協力

(国小) *別紙参照 学校運営協議会(環境部会・安全部会・学習部会)で検討している。
環境部会—学校の環境整備(国小クリーンアップ作戦)
安全部会—国小の子どもをみんなで守る会(登下校の見守り)
学習部会—学習支援(読み聞かせ・お喋り会への参加等)・施設見学、利用

(国東小) *別紙参照 本校独自の地域とのつながりによる支援(読み聞かせ・生き物調査・着衣水泳等)
県や市を通した体験学習(児童の預かり・命の授業等)
今後の支援希望(学習支援・下校の見守り)

(3) 意見交換

各学校の取組を聞いて、さらに地域としてこんなことができるのではないかという意見や聞きたい点、疑問点などグループで意見交換を行う。

〔質問〕

将来、国分寺中学区も小中一貫校になる可能性もある。南河内地区において、小中一貫校になってよかったこと、またはデメリットについて聞きたい。

〔回答〕(海老原 地域学校協働活動推進員・元南河内小中学校長)

児童・生徒が約800人、職員が70名弱の大規模校になった。最初は、小学校と中学校の文化が違うので、そのすりあわせが大変だった。しかし、動き始めてからは、職員同士のつながりもよくなり、中学生は下に小学生がいるのが当たり前になり、優しくなった。小学生は、中学生を見て成長する姿が見られた。目の前に目標があることは、非常によい環境になった。また、委員会活動など5年生から中学生と一緒に活動するので、交流活動等が活発になった。清掃活動も、1年生から9年生まで縦割で行うので、人間関係づくりが活発になった。教科によっては、中学校の先生が小学生に1年間教える環境ができています。反面、日課づくりは苦労しました。

4. 国分寺中学校区地域学校協働本部の設置について(海老原 地域学校協働活動推進員)

(1) 提案(説明) *別紙参照

各学校の1回目の運営協議会の中で大まかな部分を説明してきたが、変更点も含め、この合同運営協議会でもう一度説明していきたい。「地域学校協働本部について」というプリントの説明は、特にしない。なぜ必要や役割という部分については、時間があるときに読んでいただきたい。(印刷参照)当初3つの本部を立ち上げる予定であったが、南河内地区を2つに分けて、全部で4本部を立ち上げることに修正した。学校と地域をつなぐ地域学校協働活動推進委員(地域コーディネーター)については、現在、私(海老原)や坪山がその役を担っているが、その役目を来年度から地域の方にその役目を担ってもらう形になる。4つの本部を貫く統括地域学校協働活動推進委員(統括コーディネーター)が、私(海老原)や坪山の仕事になってくる。統括コーディネーターは、各本部に1名が就く形で考えている。そして、学校運営協議会が非常に重要な役割を担ってくる。学校運営協議会は、いろいろな意見を出し合っ

題であるとか、困りごとがあったときに、解決策を話し合っただけで地域の力が必要となったときは、この協働本部に地域コーディネーターを介して依頼、あるいは委員の方が直接動くこともある。地域を動かす原動力になるものになってほしい。学校運営協議会での意見が本部にもたくさん出てくると思う。

新たに立ち上げる国分寺本部（仮称）イメージをご覧いただきたい。地域学校協働本部の中に国分寺地区3校の現在支援していただいている団体等を挙げてある。ここに挙げられている団体には継続して支援していただけるとありがたいと思っている。このあとグループごとに意見交換の時間を設けるのでこんな団体、こんな企業にも支援いただけるのではないかと、など意見交換をしていただきたい。児童、生徒にとっても地域の方と顔見知りが増えていくなど交流が深まるなど、地域で子どもたちの成長を育むことにつながることを期待している。すぐに結果が出るものではなく、長いスパンで考えていけるとよい。地域とともにある学校、学校を核とした地域づくりができていければ、よいのではないかと考えている。

設置に向けたスケジュールについて、今日は国分寺地区の代表者との共通理解を図りたい。この後の意見交換では、協力できる団体や個人の方が、他にいないか検討していただきたい。出た意見をもとに、8月～10月あたりでさらに整備していきたいと考えている。10月末から11月には、地域コーディネーターを（各学校1名程度）を選出して、地域学校協働本部の活動を進めていきたい。名前も代表者で考えていく。

（2）意見交換

プリントに記入。まずは地域の方（企業）で、協力できる（支援していただける）団体や個人の方を考えてもらいたい。将来的には、市の警察署や消防署などの支援も入ってきたらよいと考えている。

〈意見の共有〉

- ・国分寺産業（ゴミの分別などの授業）
- ・コミュニティーが主体となっているので、協力してもらえないのではないか。
- ・先生方が困っていることから考えていくのもよい。（調理実習やミシンの使い方など）

5. その他

- ・第3回の学校運営協議会については、それぞれの学校で実施をしていく。
- ・地域学校協働本部については、今後も検討していく。

国分寺中学校校長より（菊地校長）

- ・今日が最初の合同学校運営協議会であった。できれば来年度も合同での協議会を続けていきたいと考えている。全員の委員で開催するか、代表者が集まるのか今後検討したい。実施する回数について、各学校運営協議会を4回実施する中で、そのうち1回を合同とするか、またはプラス1（合同運営協議会）にするのかなどの持ち方について、各学校の運営協議会で意見を集約していただき、それを来年度の参考にしていきたいと考えている。
- ・合同学校運営協議会の様子は、学校だより等にも写真を載せて紹介したい。

6. 閉 会

